



横浜みどりアップ計画 地域緑のまちづくり事業

R E P O R T

●地区名 **みなとみらい21中央地区**

●団体名 **みなとみらい21中央地区 みどりのまちづくり協議会**



◎所在地：西区 みなとみらい

●取組期間

5か年

●協定締結期間

平成24~28年度



地区の範囲図及び緑化実施場所

横浜みどりアップ計画とは

緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を一部財源として活用しながら、「横浜みどりアップ計画」を進めています。

横浜みどりアップ計画



地域緑のまちづくり事業とは

地域が主体となり、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、市民との協働により緑化を進めるものです。

地域緑のまちづくり事業



団体の概要・地区の諸元

みなとみらい21地区では、(一社)横浜みなとみらい21が事務局となって、地区内の環境問題を話し合う、環境対策部会を設けています。その部会で、緑環境をよりよくするため、本事業を活用して、地区の緑化を進めていくこととしました。中央地区は、対象地区範囲内の41社がみどりのまちづくり協議会に参加し、よりよい緑のまちづくりに取り組んでいます。

横浜の新しい都心として高水準の都市インフラを持つみなとみらい21地区の中で、中央地区はもっとも早くから開発が進み、業務系・商業系の高層ビルのほかに、横浜美術館やみなとみらいホール等の文化施設が集積する地区の玄関口です。

取組(計画)の概要

コンセプト

「価値のある緑と花を増やし、**みなとみらい21地区の環境と情景を豊かにする**」

方針1……ヒューマンスケールの緑化(緑花)の質と量を向上させる。

主要な歩行者動線(公共空間)とそれに面する公開空地等(私有地)の緑化手法の調和や緑視率の向上を図り、四季折々の変化など、柔軟な親密性を感じながら歩くことができる歩行者空間をつくります。

方針2……緑と花が溢れる街の維持管理のしくみを構築する。

地区全体で継続が可能で合理的な維持管理ができる方策を検討します。



- ① グランモール公園
- ② MARKISみなとみらい(34街区)の
プランター壁面緑化
- ③ 横浜アイマークプレイス
(46街区)の緑化整備
- ④ グローバルラーニングセンター
(45街区)の緑化整備
- ⑤ 横浜ランドマークタワー
(25街区)の緑化整備
- ⑥ 横浜野村ビル(46街区)の壁面緑化

5か年の主な取組実績

● 助成金額合計 58,762千円

民有地緑化

地区内の企業敷地で、まちの賑わいに寄与する緑の創出が進みました。

MARKISみなとみらい(34街区)や、横浜野村ビル(46街区)など、新規開発などにあわせて、歩行者主要動線沿いの5か所の企業敷地で、多くの人が目にする
ことができる緑がつくられました。



公共施設緑化

四季折々の変化などを感じながら歩くことができる、歩行者空間づくりのため、地区の中央に位置するグランモール公園において、花壇の増設等を行いました。

活動支援

みなとみらい地区の「水と緑の生き物ガイドブック」を制作しました。

地区内の生物多様性を広報することで、地区の価値向上や、緑化の普及啓発等を目的に、みなとみらいの1年を通して目にする
ことができる、緑や生物のガイドブックを制作しました。

5か年の取組を振り返って [地区のインタビューのコメントから抜粋]

みなとみらい地区は、就業者や来訪者が多い地区なので、地区全体の緑化方針として、ヒューマンスケールというところを意識して、緑化を行いました。緑化を行った企業からは、「社員だけでなく、多くの来訪者の方々に、公開空地の緑化がとても良いと好評です。」との声が聞かれました。また、新規に開発を行う事業者にも、みなとみらい地区が緑環境を意識した地区であるということのアピールにもなり、事業を実施してから特に、自発的に基準以上の緑化を行う施設が増えていきます。



お問合せ先

横浜市環境創造局みどりアップ推進課

Tel.045-671-3447 | Fax.045-224-6627

メール ks-ryoka@city.yokohama.jp